

## 基準 I 建学の精神と教育の効果

## 【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

### 【テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神】

#### 〈根拠資料〉

1)学修の手引き、2)CAMPUS八戸学院、3)大学案内「未来をつくるチカラ」、4)八戸学院大学短期大学部Webページ「情報公開」、5)入学式次第、6)「宗教学」シラバス、7)「自己点検評価・個人シート」学長総括、8)各自治体との地域連携協定、9)学生ボランティア活動報告集計、10)青森県内3短期大学共同IR資料、11)学内AL資料

### 【区分 基準Ⅰ-A-1 建学の精神が確立している】

#### 〈区分 基準Ⅰ-A-1の現状〉

本学の「建学の精神」「教育理念」「教育目的」を以下に示す。

#### 建学の精神 「神を敬し、人を愛する」

八戸学院大学短期大学部は、カトリック精神に則る道德教育を施し、高潔なる人格の完成を期し、現代社会が要請する有為の人材を育成することを建学の精神とする。

#### 教育理念

教育基本法および学校教育法に基づき、カトリック精神に則り、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をすることを理念とする。

#### 教育目的

カトリック精神に基づき、広く豊かな教養を授け、深い専門の学術を探究せしめ、正しい道德観と高い知性を有する民主主義的にして平和を愛好する人材を育成することを目的とする。

学校法人光星学院の建学の精神は、昭和34年、創立者洗礼名ヨゼフ中村由太郎により制定された。中村由太郎は自らの苦学の体験とキリスト者としての愛と奉仕の精神を基に、「若人に教育の機会を与え、人格の陶冶を図り、地域社会の発展に寄与する人材を育成せん」と理念・理想を掲げ、開学を決意し、「神を敬し、人を愛する」という言葉にその意を込めた。

本学は創立者の建学の趣旨・理想を受け、教育理念に「教育基本法および学校教育法に基づき、カトリック精神に則り、広く豊かな教養をもち、正しい道德観と高い知性を有する青年の育成に努め、21世紀の要求している人間の育成、特に地方の時代の到来にこたえ、地方文化や地域経済に密着した教育をすることを理念とする」と謳っ

ている。したがって、建学の精神に基づく教育理念は、教育基本法および私立学校法が求める公共性を有している。

建学の精神については、全学生に配布する「学修の手引き」に明記している。また、学内各所に「神を敬し、人を愛する」を掲額し、教職員・学生および一般の来学者にも周知を図っている。さらに、建学の精神を表すものとして、本学元教授・欠畑みな子氏制作の「聖母マリア像」を幼児保育学科棟1号館エントランスホールに安置し、本学のシンボルとしている。(学修の手引き)

学外に向けては、Webページ、学院広報誌「CAMPUS八戸学院」、大学案内などで公開し、オープンキャンパスや大学説明会でも説明している。(CAMPUS八戸学院、大学案内「未来をつくるチカラ」、八戸学院大学短期大学部Webページ「情報公開」)

建学の精神を共有するために、毎年学長が入学式の式辞やオリエンテーション時の講話で言及するほか、全学科の必修科目である「宗教学」の授業で担当教員が講義している。また、幼児保育学科学生は日頃から宗教曲の合唱練習を行い、各種式典で披露しているが、これも建学の精神の共有に寄与するものである。(入学式次第、「宗教学」シラバス)

建学の精神は学長・学科長が高等教育をとりまく社会の状況を鑑み、解釈や文言を定期的に確認して、その結果を教授会で報告している。

#### 【区分 基準 I-A-2 高等教育機関として地域・社会に貢献している】

##### 〈区分 基準 I-A-2の現状〉

本学では平成25年度から28年度まで「地域貢献の推進」を重点目標に掲げてきた。特筆すべきは、教員が公開講座や生涯学習事業の講師を依頼されるだけでなく、自ら企画して地域に向けた活動を立ち上げるようになったことである。その中には、幼児から成人までを対象とした現代芸術教室「アートイズ」、保育者を対象としたリカレント教育の場である「保育の学校」、地域の高齢者を対象とした「ウォーキングクラス」、子どもに食事と居場所を提供する「子ども食堂」等がある。(「自己点検評価・個人シート」学長総括)

平成29年度は重点目標を「教育の質保証」と改めたが、地域貢献活動は従来どおり活発に行われている。地域・社会に向けた公開講座、生涯学習事業、正課授業の開放の平成29年度の活動実績を表1-A-1に示す。

表1-A-1 平成29年度 教員の地域貢献活動

	活動数
公開講座	128
生涯学習事業	25
正課授業の開放	18
計	171

本学と協定締結をしている地域は八戸市、三沢市、階上町、五戸町、田子町、新郷村の6自治体である。各学科は八戸学院地域連携研究センターと連携をとりながら活動をしている。(各自治体との地域連携協定)

本学は地域に根ざした高等教育機関として、地域の多くの施設からボランティアの依頼を受けており、学生に対してもボランティア活動を推奨している。平成29年度の学生ボランティア活動は、届出のあったもので参加件数54件、参加者数281名となっている。保育所や幼稚園・福祉施設の行事の手伝い、サッカー幼児大会補助などである。(学生ボランティア活動報告集計)

そのほか、学生と教員が地域に出向いて研究成果・学習成果を披露するなど、自主的・自発的活動も増加している。「ブラスバンド演奏」「ハンドベル演奏」「八短ガールズ(テレビ番組制作)」「IPark(わんぱーく)」「絵本読み聞かせ」「ブログのスタンプ制作」など、内容も多彩であり、本学の魅力・創造力を地域に発信している。また、前述のアートイズ、子ども食堂にも学生が参加し、ボランティアとして活動しながら学びを深めている。

#### 〈テーマ 基準 I-A 建学の精神の課題〉

建学の精神は本学の教育理念・理想を明確に示している。理念・理想を学内外に表明し、学生は「宗教学」の授業や学長講話、入学式の式歌等を通して理解を深めている。

しかし、近年国内においてキリスト教の宗教色が薄まる中、本学においても創立者の趣意を今後にどのように継承・体現・表明していくかは永続的に考えなければならない課題である。

学長は「神を敬し、人を愛する」とは「与えられた境遇を受け入れ、その中で自己を耕して自らが体得したものを他と共有することである」と学生に説明している。平成29年度は共同IR(青森県内3短期大学共同インスティテューショナル・リサーチ)と学内AL(アクティブ・ラーニング)を通して専門性の学びや人との関わりについて考える機会があった。(青森県内3短期大学共同IR資料、学内AL資料)

今後は法人全体で「宗教学」や本学の沿革などを学び、創立者の趣意を深く理解する活動が必要である。

#### 〈テーマ 基準 I-A 建学の精神の特記事項〉

特になし。

#### [テーマ 基準 I-B 教育の効果]

##### 〈根拠資料〉

1)学修の手引き、2)平成29年4月教授会議案、3)八戸学院大学短期大学部Webページ、4)大学案内「未来をつくるチカラ」、5)大学ポートレート「私学版」

#### [区分 基準 I-B-1 教育目的・目標を確立している。]

##### 〈区分 基準 I-B-1の現状〉

各学科の教育目的・目標は以下の通りである。

### 学科の教育目的・教育目標

表 I -B-1

学科	教育目的	教育目標
幼 児 保 育	カトリシズムに則り、愛と知性に富み、健全にして豊かな情操と調和のとれた人格を有し、保育の社会的発展に貢献する人材の育成を目的とする。	(1) 理念と実践の融合を図り、常に保育の専門性の向上を目指す保育者を育成する。 (2) 子どもを受容し共感できる感性をもち、子どもの権利を尊重する保育者を育成する。 (3) 社会に役立つ人材として、新しい保育を創造していく保育者を育成する。
ライフデザイン	自立した個の確立を目指して、人生や生活をデザインできる知識や技術を学修し、実践等を通して、進んで社会に貢献する行動力とバランスある思考力を有する人材の育成を目的とする。	(1) 自らの意志と判断に基づいて行動できる人材を育成する。 (2) 豊かな生活を創造し、環境や自分自身の変化に柔軟に対応できる能力を育成する。 (3) 各分野の基本となる資格取得に直結対応したカリキュラム編成により、地域社会で活躍できる実践力のある人材を育成する。
看 護	豊かな感性と人間性を備え、日々進歩する看護の知識や技術に対応できる能力や地域の保健医療活動、健康増進に看護の実践者として貢献できる資質の高い人材の育成を目的とする。	(1) 広く豊かな教養を身につけた看護師を育成する。 (2) 理論と実践を統合し、看護の専門性を探求する看護師を育成する。 (3) 医療の高度化に対応した実践力の高い看護師を育成する。

このように、各学科の教育目的・目標は本学の建学の精神に基づいて確立しており、八戸学院大学短期大学部学則第1条第2・3・4項に明記されている。3学科とも地域社会で活躍できる行動的实践者を育成するため、それぞれの分野で理論と実践の融合を図り、教育水準の向上や活性化に努めている。

教育目的・目標と教育の三つの方針は「学修の手引き」に明記しており、これらを学生に周知するため、オリエンテーションで手引きを用いて説明している。教職員に対しては、年度初めの教授会で学長が確認をし、当該年度の重点目標を示している。(学修の手引き、平成29年4月教授会議案)

学外に対しては、Web ページ・大学案内・大学ポートレートなどに掲示し、オープンキャンパス・外郭3団体の会合(後援会・父母の会・同窓会の各総会等)などで広報している。(八戸学院大学短期大学部 Web ページ、大学案内「未来をつくるチカラ」、大学ポートレート「私学版」)

教育目的・目標の点検としては、学科長会議・教授会で翌年の教育目的・目標を確認し、教職員全体の共有を図っている。教育目的・目標が地域社会の要請に応じてい

るかを含め、内容や文言の点検は年度末に学科長会議で行っている。

**【区分 基準 I-B-2 学習成果 (Student Learning Outcomes) を定めている。】**

**<区分 基準 I-B-2の現状>**

短期大学としての学習成果は、建学の精神に基づいて策定された卒業認定・学位授与の方針に明確に示されている。さらに、各学科の学習成果は、それぞれの専門的分野において身につけた専門性と人間性をもって、地域に貢献できる人材に成長することであり、建学の精神および教育目的・目標に基づき、各学科の卒業認定・学位授与の方針に示されている。

本学および各学科の卒業認定・学位授与の方針は表 I-B-3 に示す通りであり、そこに示されている学習成果は表 I-B-2 のように整理することができる。

表 I-B-2 各学科の学習成果 (到達目標)

	専門的学習成果	汎用的学習成果
幼児保育学科	1 健全で豊かな情操と、子どもの心情に寄り添う専門的態度を有する。 2 保育の専門的知識と技術を有し、子どもの発達過程に応じて豊かな保育環境を構成することができる。 3 保育者としての責務を理解し、他の保育者や専門職者と協働して、子どもの最善の利益を追求することができる。	1 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。 2 責任感、積極性、探究心、他者との協調性、コミュニケーション力、文章を書く力等、教育・保育に必要な基礎的・汎用的能力を獲得している。
ライフデザイン学科	1 教養とスキルを身につけ、人生や生活を主体的にデザインできる。 2 将来に対する明確なビジョンをもち、社会に貢献できる行動力と論理的に問題解決ができる思考力を有する。 3 社会で必要とされている各分野での専門的知識および基礎的な実践力を身につけている。	1 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。 2 職場や地域社会の中で多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的・汎用的な能力を獲得している。
看護学科	1 看護の基礎として必要とされる教養と、他者の痛みを感じ取ることのできる感性を備えている。 2 保健・医療・福祉分野で必要とされる看護の専門的知識および基礎的な実践力を身につけている。	1 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。 2 看護師として社会的・職業的に自立するために必要な基礎的・汎用的な能力を獲得している。

	3 看護学の各分野における専門性を有し、現代社会が求める健康に関するニーズに対応することができる。	
--	---	--

専門的学習成果は、法に定める短期大学の規定に照らして、短期大学としての教育の質を保証するため、3学科とも定期的に点検を行い、卒業認定・学位授与の方針として「学修の手引き」やWebページで公表している。汎用的学習成果も定期的に点検を行い、特にその測定方法について検討している。（学修の手引き、八戸学院大学短期大学部Webページ）

**【区分 基準 I-B-3 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（三つの方針）を一体的に策定し、公表している。】**

**＜区分 基準 I-B-3の現状＞**

本学および各学科の三つの方針を以下の表に示す。

**八戸学院大学短期大学部 三つの方針（ポリシー）**

表 I-B-3

区 分	ディプロマポリシー (卒業認定・学位授与の方針)	カリキュラムポリシー (教育課程編成・実施の方針)	アドミッションポリシー (入学者受け入れの方針)
八戸学院 大学短期 大学部	<p>本学では、卒業要件を満たし、以下のことを修得した人物に卒業を認定するとともに、学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神に基づき、幅広い教養および総合的な判断力と豊かな人間性を身につけている。</li> <li>2. それぞれの専門的分野において社会的役割と責任を果たし、地域社会に貢献することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 建学の精神に則って宗教学を必修科目とし、広い教養と豊かな人間性を育むための教養系科目を配置する。</li> <li>2. 考える力や表現する力を養うため、少人数の参加型授業(ゼミナールや研究演習)を必修とする。</li> <li>3. それぞれの学科において、目標とする資格を認定するための専門教育科目を配置し、資格取得のために必要な知識と技能を養う。</li> </ol>	<p>本学では、以下の資質をもった人物を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「神を敬し、人を愛する」というカトリック精神を理解する人</li> <li>2. それぞれの学科における専門的分野の学修に意欲をもっている人</li> <li>3. 地域社会の一員としての自覚をもち、地域への貢献に意欲的な人</li> </ol>
幼児 保育学 科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 健全で豊かな情操と、子どもの心情に寄り添う専門的態度を有する。</li> <li>2. 保育の専門的知識と技術を有し、子どもの発達過程に応じて豊かな保育環境を構成することができる。</li> <li>3. 保育者としての責務を理解し、他の保育者や専門職者と協働して、子どもの最善の利益を追求することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育者に求められる情操を育む柱として音楽教育を重視し、教養科目の音楽と専門科目のピアノレッスン I～IVを必修とする。</li> <li>2. 保育士資格および幼稚園教諭二種免許状を取得するために必要なカリキュラムを編成する。また、自分の研究関心に基づいて保育について深く学ぶために、ゼミナール I～IVを必修科目として配置する。</li> <li>3. 保育者として他者と協働するための基礎的な力を育成するために、学内での実習指導の科目を通年で配置する。</li> </ol>	<p>保育士資格および幼稚園教諭二種免許状を取得する強い意志を有し、保育者として社会において活躍しようとする意欲がある人を受け入れる。</p> <p><b>【幼児保育学科の具体的な受け入れ方針】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情操教育であり保育の専門技術でもある音楽を積極的に学ぼうとする意欲がある。</li> <li>2. 保育の専門的知識と技術を身につけようとする強い意志がある。</li> <li>3. 「読む、書く、聞く、話す」などの基本的なコミュニケーション能力を有する。</li> <li>4. 高等学校で学習した主要科目について、十分な基礎学</li> </ol>

			力を身につけ、基礎的な課題を解くことができる。
ライフデザイン学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教養とスキルを身につけ、人生や生活を主体的にデザインできる。</li> <li>2. 将来に対する明確なビジョンをもち、社会に貢献できる行動力と論理的に問題解決ができる思考力を有する。</li> <li>3. 社会で必要とされている各分野での専門的知識および基礎的な実践力を身につけている。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな教養と人生のデザイン力をもった社会人育成のために、教養科目に社会学、キャリアプランニングを配置し、専門科目では、ライフデザイン論、コミュニケーション論を必修とする。</li> <li>2. 社会に貢献できる能力を育成するために、専門関連科目として、ゼミナールⅠ～Ⅳを必修科目として配置する。</li> <li>3. 現代社会に必要とされる能力の育成のために、資格取得直結型カリキュラムを配置し、「食と観光」、「健康と医療」、「ビジネススキル」のコースをおく。</li> </ol>	<p>自己の将来を創造し、資格を取得する強い意志を有し、社会において活躍しようとする意欲がある人を受け入れる。</p> <p>【ライフデザイン学科の具体的な受け入れ方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 将来を創造し、積極的に社会貢献を実践する意欲がある。</li> <li>2. 資格取得を中心とする「人生の得意技」を身につける強い意欲がある。</li> <li>3. 「読む、書く、聞く、話す」などの基本的なコミュニケーション能力を有する。</li> <li>4. 高等学校で学習した主要科目について、十分な基礎学力を身につけ、基礎的な課題を解くことができる。</li> </ol>
看護学科	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護の基礎として必要とされる教養と、他者の痛みを感じ取ることのできる感性を備えている。</li> <li>2. 保健・医療・福祉分野で必要とされる看護の専門的知識および基礎的な実践力を身につけている。</li> <li>3. 看護学の各分野における専門性を有し、現代社会が求める健康に関するニーズに対応することができる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 豊かな教養と感性を備えた看護師の育成のために、リベラルアーツ科目を配置する。</li> <li>2. 看護の専門職としての能力を養成するために、看護師国家資格取得に必要なカリキュラムを編成する。</li> <li>3. 医療の高度化に対応できる能力を育成するために、専門関連科目として、研究演習を2年次から3年次にかけて配置する。</li> </ol>	※ 平成28年4月、八戸学院大学健康医療学部学科に移行したため、短期大学部としては入学者受け入れの方針なし。

本学および各学科の「卒業認定・学位授与の方針」は建学の精神と教育目的・目標に基づいて策定されており、「卒業認定・学位授与の方針」に示されている学習成果を達成するために、「教育課程編成・実施の方針」が定められている。また、この「卒業認定・学位授与の方針」および「教育課程編成・実施の方針」に見合う入学生を確保するために、「入学者受け入れの方針」を定めている。

これら三つの方針は、平成23年度に学長、各学科長、教務委員長が中心となって策定し、平成24年度から適用された。その後も点検を重ね、平成29年4月に学校教育法施行規則が改正されたのを機に、八戸学院大学と合同で三つの方針すべてについて見直しを行い、新しい三つの方針を策定した。（平成29年4月教授会資料「三つの方針」）

各学科とも、「入学者受け入れの方針」に基づいて入学生の募集活動を行い、入学試験を実施している。教育活動は「教育課程編成・実施の方針」に基づいて編成された教育課程に従って行われ、各科目の担当教員はシラバスに記載した学習成果が得られるように授業を展開している。また、「卒業認定・学位授与の方針」に示された学習成果の獲得状況を調べるため、学生の自己評価や実習先からの評価、卒業後の事業所からの評価等を用いて点検し、その結果を教育活動に反映させている。（詳細は基準Ⅱ-A



を参照)

三つの方針は、「学修の手引き」に記載して学生に周知するとともに、年度初めのオリエンテーションや履修登録時には、それを用いて説明している。学外に対しては、大学案内、八戸学院大学短期大学部Webページ等を通じて三つの方針を明らかにしている。また、年に数回行われるオープンキャンパスにおいても三つの方針を説明し、学外へ表明している。(学修の手引き、大学案内「未来をつくるチカラ」、八戸学院大学短期大学部Webページ)

### ＜テーマ 基準 I-B 教育の効果の課題＞

各学科の教育目的・目標に基づいて平成29年4月に策定された新しい三つの方針について、地域社会が要請している人材育成に込んでいるのか、「卒業認定・学位授与の方針」に基づいて策定された「専門的学習成果」「汎用的学習成果」が短期大学としての教育の質を保証し、学生にとって2年間の在学中に達成可能な目標になっているか、今後数年をかけて検証を行っていくが、その検証方法が従来のみで良いのか検討しなければならない。

### ＜テーマ 基準 I-B 教育の効果の特記事項＞

特になし。

## 【テーマ 基準 I-C 内部質保証】

### ＜根拠資料＞

1) 過去3年間「自己点検・評価報告書」、2) 平成29年度教授会議案一覧、3) 八戸学院大学短期大学部Webページ、4) 「自己点検・評価個人シート」学長総括、5) 光星高校教員との意見交換会プログラム、6) 就職先アンケート、7) FD報告書、8) アクティブラーニング(AL)活動報告書、9) 記念ミュージカル「北の大地に60年」

### 【区分 基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制を確立し、内部質保証に取り組んでいる。】

#### ＜区分 基準 I-C-1の現状＞

「八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部大学評価に関する規程（諸規程集）」に基づいて「大学評価統括本部」が、「八戸学院大学短期大学部自己点検評価委員会規程（諸規程集）」に基づいて「自己点検評価委員会」が組織されている。「大学評価統括本部」は自己点検評価の基本方針と大学評価に係る諸事項の決定を担い、第三者評価受審時には対応組織としての役割を果たしている。「自己点検評価委員会」は毎年度自己点検・評価を行い、「自己点検・評価報告書」を発行している。また、平成21年12月に「平成22年度より大学と短大それぞれの自己点検評価委員会が相互に検証を行う」ことを決議し、平成23年度より毎年度相互評価を実施している。(過去3年間「自己点検・評価報告書」)

自己点検・評価を円滑かつ有効に進めるためには、日頃から必要なデータを収集・

蓄積することが肝要である。そのため、学内の行事や教育活動の担当者はPDCAサイクルを意識して、事前の計画と事後の評価（アンケート結果等）を委員会、学科会議、教授会等で報告し、情報共有を図っている。（平成29年度教授会議案一覧）

報告書は毎年Webページで公表し、冊子は関係各所に配布している。（八戸学院大学短期大学部Webページ）

自己点検・評価報告書の作成に当たっては、平成26年度から全教員が「自己点検・評価個人シート」を作成している。シートは学科ごとに学科長がとりまとめ、学長が総括して、内容を自己点検・評価報告書に反映させている。平成28年度の第三者評価を経て以来、報告書の作成に学内の協力がより得やすくなった。全員参加で教育の質向上を重視するという方針が教職員に理解されたと評価できる。（「自己点検・評価個人シート」学長総括）

本学の教育活動に対して高等学校から意見を聴取する場としては、毎年6月に行われる高等学校教員向け入試説明会がある。また、幼児保育学科では高大連携のために、系列の八戸学院光星高等学校保育福祉科教員と毎年意見交換会を行い、学生についての情報を共有するとともに、互いに要望を出し合っている。そのほか、卒業生の就職先からの意見聴取のために、就職支援委員会が隔年で就職先アンケートを実施している。（光星高校教員との意見交換会プログラム、就職先アンケート）

自己点検・評価報告書に示された課題と改善計画は学科長会議で取り上げ、改善に努めている。本報告書は作成の過程において、また基準協会から受けた第三評価の共有において、全学の意識の統一と改革を促す役割を果たしている。

**【区分 基準 I-C-2 教育の質を保証している。】**

**＜区分 基準 I-C-2の現状＞**

学習成果を査定し、教育の質を向上させるために、各学科でさまざまな方法を用いている。各学科における専門的学習成果と汎用的学習成果の査定の手法を表 I-C-1に示す。

表 I-C-1 学習成果の査定方法

	専門的学習成果	汎用的学習成果
幼児保育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各科目の成績評価</li> <li>・ GPA</li> <li>・ 実習評価</li> <li>・ 履修カルテにおける自己評価</li> <li>・ 幼稚園教諭二種免許状取得率</li> <li>・ 保育士資格取得率</li> <li>・ 就職先アンケート</li> <li>・ 同窓生アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 行事におけるアンケート</li> <li>・ 「国語力テスト」結果</li> <li>・ 実習評価</li> <li>・ 履修カルテにおける自己評価</li> <li>・ 就職先アンケート</li> <li>・ 同窓生アンケート</li> </ul>

ライフデザイン	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各科目の成績評価</li> <li>・ GPA</li> <li>・ 資格取得率</li> <li>・ 就職先アンケート</li> <li>・ 同窓生アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汎用的学習成果アンケート</li> <li>・ インターンシップ先の評価結果</li> <li>・ 就職先アンケート</li> <li>・ 同窓生アンケート</li> </ul>
看護	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各科目の成績評価</li> <li>・ GPA</li> <li>・ 国家試験合格率</li> <li>・ 就職先アンケート</li> <li>・ 同窓生アンケート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「社会人基礎力」自己評価</li> <li>・ 「学士力」自己評価</li> </ul>

これらの査定結果については、担当者が学科会議もしくは教授会で報告し、情報共有を図るとともに、担当者会議において査定方法の点検を行っている。

また、教育の質向上のために、実習指導担当者は年度末にPDCAサイクルで報告書を作成し、学科会議で報告している。実習指導を除く科目についてはそうした報告はなされないが、全学的に実施している「学生による授業評価」等で、質の改善を図っている。（FD報告書）

以下に本学の授業PDCAサイクルの基本を示す。

表 I -C-2 授業のPDCAサイクル

Plan	授業科目の概要と到達すべき学習成果、授業計画、学習評価の方法を示したシラバスを作成する。
Do	授業、実習指導、学習・研究支援を実施する。
Check	成績評価、学生の自己評価、学生による授業評価などで課題の発見・分析を行う。教員相互の授業参観を受ける。「自己点検・評価個人シート」を作成する。
Action	FD活動等を参考に課題の解決策を検討し、次のプランに接続させる。

本学では学務部が学校教育法、短期大学設置基準等の関係法令の変更などを適宜確認し、法令順守に努めている。学内規程等を制定・改正する場合は、該当する委員会等で検討した後、八戸学院大学・八戸学院大学短期大学部運営会議で審議し、大学・短大共通の規程は運営会議議長が、大学、短大それぞれの規程は各学長が決定している。必要な教育情報はWebページで公開している。（八戸学院大学短期大学部Webページ）

### <基準 I -C 内部質保証の課題>

① 外部関係機関からの意見聴取は各部署で組織的に行われているが、現状では教授会で意見の集計結果が発表され、各部署が自発的に対応を取る体制に留まっており、

意見を教育の質内部保証につなげる仕組みが不十分である。

② 次項＜内部質保証の特記事項＞にアクティブラーニング(AL)の実践を記述した。全教員一斉の取り組みで成果を検証することができた。一連の取り組みにはやや拙速の感があったが今後ともPDCA方式で継続実践すればより明らかな成果が得られると考えている。

### ＜基準 I-C 内部質保証の特記事項＞

平成 29 年度は重点目標に「教育の内部質保証」を掲げ、「アクティブラーニング(AL)の実践」に取り組んだ。(アクティブラーニング(AL)活動報告書)

教員のアンケートにより授業のテーマを「学生の主体性を重んじた授業」と設定し、FD委員会が実施した「教員相互の授業参観」期間中に「アクティブラーニング(AL)授業」を実践した。短大教員23名が参加して、授業前指導案を作成し、授業終了後の達成度報告書を学長に提出した(看護学科は、在籍する3年生全員が実習期間中のため、今回は参加しなかった)。

授業者(授業担当教員)は下記のように自己評価している。

表 I-C-3

学生の授業態度評価	授業者の回答数	パーセント
いつもより良い	17	73.9%
いつもと変わらない (「常時良い」を含む)	6	26.0%
いつもより悪い	0	0

表 I-C-4

授業の成果・達成度評価	授業者の回答数	パーセント
0～60%	0	0
70%	4	17.4
80%	13	56.5
90%	6	26.0
100%	0	0

ALの授業は①授業直後の学生面接、②授業者のアンケート(上記表)、③教職・保育実践演習授業での学生の記述等で検証することができた。教員と学生が一体となってAL授業を実践し、教育の質向上の活動を展開し、授業改善の一つの成果を修めることができたと評価している。学生は自ら取り組まなければ解決できない課題を与えられて、またグループ課題での発表を通じて汎用的能力の向上にも効果があった。

### ＜基準 I 建学の精神と教育の効果の改善状況・改善計画＞

(a) 前回の認証(第三者)評価を受けた際に自己点検・評価報告書に記述した改善計

## 画の実施状況

### ① 基準 I-Aの改善計画の実施状況

平成28年度の第三者評価では、改善計画として「建学の精神の具現化」を記述している。

この「建学の精神の具現化」の例として、平成29年度に開催された「学校法人光星学院60周年」の記念ミュージカル「北の大地に60年」に全学生が出演したことを挙げたい。ミュージカルは建学の精神から始まる60年の歴史を辿り、先人の努力によって今まで続いたことを祝い、未来への躍進を誓う壮大な内容であった。先人の歩みを演じることは建学の精神理解に大きな意義をもっていた。(記念ミュージカル「北の大地に60年」)

### ② 基準 I-Bの改善計画の実施状況

改善計画に記述した「主体性をもって学ぶ姿勢の涵養」の実行状況として、前述の「アクティブラーニング(AL)の実践」を挙げる。教育の質向上に一定の成果が認められた。

### ③ 基準 I-Cの改善計画の実施状況

改善計画に自己点検・評価活動における教職員の関与を取り上げているが、平成29年度も、全教員が学科長に「自己点検・評価個人シート」を提出し、学科長が学科ごとにとりまとめ、学長が総括を行った。これにより自己点検・評価活動に全員参加するという目標が達成された。今後も「自己点検・評価個人シート」を活用していくが、研究業績、社会的活動の具体的実績情報を収集できる様式を検討する。

## (b) 今回の自己点検・評価の課題についての改善計画

- ① 校務分掌において、自己点検委員や執筆担当者が固定化する傾向にあるので、多くの教職員に携わって貰うように努めたい。
- ② 3学科とも卒業生評価や汎用的学習成果により、全体に指導のポイントが明確になってきた。今後これらの資料を基に学科ごとに検証を行い、学生の特性を見極めた上で具体的なアクションプランを立案し実行に移していく。
- ③ 地域貢献推進の姿勢は継続し、本学の教育効果を学内外に示して地域社会での存在感を高めていく。